

みんなで努めよう 自主発展と 地域への融和



アイビーシブアーク株式会社
秋山精興株式会社
茨城川口薬品株式会社
茨城三和化工株式会社
株式会社エフ・ティエン・ワン
株式会社エス・ピー・エル
共栄樹脂株式会社
神島化学工業株式会社
国分電機製作株式会社
株式会社後援製作所
株式会社板垣エンタープライズ
サニシティ金属株式会社
サニシティ金屈株式会社
株式会社シー・エナジー
七福鋼業株式会社
昭和トクダツ茨城株式会社
スター電器製造株式会社
総合定置式ドリリング株式会社
大栄産業株式会社
田島ルイ・フィング株式会社
株式会社本社ホールディング
株式会社ツムラ
東京電力パワーグリッド株式会社
東友エンジニアリング株式会社
東洋製罐株式会社
東洋発條工業株式会社
株式会社 トーシソウイング
株式会社 ナイス
株式会社日本エナジーシステム
日本クロージャー株式会社
早稲科ラボパブリック株式会社
日本通信紙株式会社
日本ナショナル工業株式会社
信川化学工業株式会社
富士特殊紙業株式会社
フジモリ産業株式会社
二橋フロンティア株式会社
フルハーフサービス株式会社
株式会社 池野製作所
株式会社 丸高
ミツウロコ味噌株式会社
美利里運送倉庫株式会社
リンクスデック株式会社
株式会社 レゾナック建材

事務局 〒315-0195 石岡市柿岡 5680-1 (八郷総合支所内)
電話 0299-56-3136 FAX 0299-56-3137

 環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

本誌掲載写真の無断転載
および複写を禁じます。



山車・獅子
位置情報



交通情報





石岡のおまつり ひたちのくにそうしやぐうれいたいさい (常陸國總社宮例大祭)

常陸國總社宮の最も重要な祭りが9月の例大祭です。茨城県を代表するこの祭りは近世以降に様々な要素が加わり、今日まで発展してきました。延享年間（1744～47）頃には奉納相撲が始まり、現在でも続けられています。また、江戸時代後期に府中（現石岡市旧市街）の愛宕祭や天王祭を賑わせた富田町のささら、土橋町の大獅子など様々な風流物が、近代になると總社宮の例大祭へ移行しました。さらに富裕な商人層が贅を凝らした山車を取り入れ、菊花紋の大神輿とそれに供奉する行列が整えられ、現在形となったのです。開催日は、毎年9月15日の例祭と、敬老の日を最終日（還幸祭）とする3日間で行われます。地域を挙げて祝われるため「石岡のおまつり」と呼ばれ、全国から数十万人もの観光客が訪れる賑わいを是非ご覧下さい。

常陸國總社宮と常陸国府跡

霞ヶ浦と筑波山の美景を同時に望める石岡台地には、約1300年前に常陸国の国府が置かれました。国府の役人である国司が執務した場所は国衙と呼ばれます。近年の大規模発掘によって常陸国衙が現在の石岡小学校の場所にあったことが明らかとなり、平成22年に国の史跡として文化財に指定されました。常陸國總社宮は、いま全貌が明らかになりつつある国衙に隣接して創建された「總社」です。

總社とは国のあちこちに鎮まる神々を国衙近くの一ヶ所に集めた神社であり、全国で55社が確認されています。常陸國總社宮の実態は多くの謎に包まれています。徳川光圀が『大日本史』編纂のために参照したとされる「常陸總社文書」などを紐解くと、古代から中世にかけて一ノ宮である鹿島神宮や常陸大掾氏、歴代將軍家との深い関わりを持っていたことがうかがえます。

御祭神は、伊邪那岐命・速玉藝命・須佐之男命・大國主尊・大宮比賣尊・布瑠大神の六柱とされ、境内の十二末社と合わせて常陸国内の神々をお祀りしています。常陸總社文書のほか、太田道灌、佐竹義宣といった武将の軍配、三十六歌仙が描かれた14面の大絵馬が茨城県の有形文化財に指定されています。また、寛永年間に造営され、平成28年に修復された御本殿と、茅葺屋根の随神門内に安置された一対の隨身像が石岡市指定文化財になっています。



かりでん 年番制度と仮殿・相町について

常陸國總社宮の氏子区域のうち15の町内は1年交代で「年番町」となります。年番町は町内に「仮殿」を造営して御祭神をお迎える大役を担うとともに、年間を通じて神社への奉仕に努めます。仮殿とは町中にお出ましになった御分霊が、人々の歓待を受けるために設けられる仮のお宮で、「おかりや」とも呼ばれます。奉祝祭の夜にはここで年番町の安全祈願祭が行われるとともに巫女舞が奉納され、餅まきが行われます。

年番制度の起源は天王祭における府中4組の年番に端を発し、明治35年に現在の年番順序の原型が決定しました。

※赤字は令和6年の年番町

①森木町 もりきちょう	②大小路町 おおこうじちよう	③土橋町 つちばしちよう	④木之地町 きのちちよう	⑤金丸町 かねまるちよう	⑥守横町 もりよこちよう
⑦富田町 とみたちよう	⑧仲之内町 なかのうちにちよう	⑨宮下町 みやしたちよう	⑩青木町 あおきちよう	⑪幸町 さいちよう	⑫國分町 くにぶんちよう
⑬中町 なかつちよう	⑭若松町 わかまつちよう	⑮泉町 いずみちよう	⑯香丸町 かうまるちよう	※木之地は後に辞退	

町内には「相町（あいちょう）」と呼ばれる、特に関係が深い町内が存在します。互いに協力し、まつりの成功につとめることをはじめ、年番以外でもお互いの町内を訪問し、関係を深めます。相町の組み合わせは次の通りです。森木町ー香丸町、大小路町ー守横町、土橋町ー仲之内、金丸町ー青木町、富田町ー國分町、幸町ー泉町、中町ー若松町、宮下町（木之地の離脱に伴い単独）

●例祭（9月15日）～御扇が開かれる、古式の重儀～

毎年9月15日の午前10時から、最も重要な祭典「例祭」が行われ、石岡市指定文化財の本殿御扇が宮司により開かれます。全国の神社を統括する神社本庁から献幣使が参向し、氏子全町の代表者が参列します。

●神幸祭 ～大神輿が出御し、御仮殿に鎮座する～

「神幸祭」の一日は大神輿と綱をお読みの「御綱祭」から始まります。「町内間挨拶の儀」で各代表が挨拶し、獅子・山車・ささらのための大神札が授与されます。午後になると氏子会長や総代、各町内の代表者などが拝殿に参集し「神幸祭発興式」が始まります。宮司が祝詞を奉し、祭典委員長に「天国の宝剣」が手渡されると、本殿から御祭神の御分霊が大神輿へと遷される「御霊遷し」が行われます。

御霊遷しの後、ささらと獅子が舞を奉納。「神輿衆」がお読いを受けた後、予定時刻に宮司が大神輿の出御を宣言し、花火を合図にいよいよ大神輿が出発します。

境内を出た大神輿は、各町内を練り歩いて御仮殿へ向かいます。行列には各町内の梶獅子が

続き、山車は整列して大神輿を迎えます。

大神輿が御仮殿へ到着すると鎮座祭が斎行されます。獅子や山車は無事御分霊が鎮座した御仮殿を順次参拝すると、お囃子や踊り、獅子舞などをそれぞれに始めて神さまを楽しませます。



●奉祝祭・奉納相撲 ～町全体で行われる、神賑の数々～

連休の中日は奉祝祭として様々な神賑が見られます。總社宮では奉納相撲が開催されます。武双山や雅山など、茨城県を代表する力士もかつてはここで戦いました。午後からは大神輿より一回り小さな「明神神輿」が出御し、境内の神楽殿では「染谷十二座神楽」や巫女舞が奉納されます。

御幸通りでは午後から夕方にかけて梶獅子と山車が集合して盛大な大行列を行います。

【染谷十二座神楽】：石岡市内・竜神山を御神体とする染谷佐志能神社で毎年4月19日の例祭日に奉納される神楽。太太鼓、小太鼓、笛、鼓、鈴を使用し、石岡市有形民俗文化財である各種の仮面をかぶって無言の所作で表現します。演目は「猿田彦の舞」「長刀つかい」「矢大臣」「剣の舞」「豆まき」「狐の田ういない」「種まき」「巫女の舞」「鬼の餅まき」「みきの舞」「えびすの舞」「天の岩戸」の12座あり、五穀豊稔の祈願と感謝が込められた神楽です。

【巫女舞】：明神神輿の出発を見送り、奉納されるのが「浦安の舞」です。浦安の舞は皇紀2600年（昭和15年）を記念して宮内省楽長の多忠朝が作曲し、昭和天皇の御製である「天地の神にぞ祈る朝なぎの海のごとくに波だため世を」という和歌が歌詞になっています。

	先導神職
	ささら
	露城獅子
	祭太鼓
	真榊
	猿田彦
	社銘旗
	比礼餅
	祭典委員会
	四神旗
	氏子会長
	錦旗
	唐櫓
	神輿
	巫女司
	宮司官
	前驅
	氏子総代
	氏子各町供奉員
	年番町役員
	機獅子(年番順)

～年番の大役が、未来へと引き継がれる～

最終日は御仮殿から大神輿が本殿へと戻る「還幸祭」が行われます。年番町に二夜に渡って鎮座した御分霊は、再び大神輿と供奉行列によって一路、總社宮へ向かいます。御分霊が還御たどくしほうてんすると、宮司は例大祭最後の祝詞を奏上します。参列者が玉串奉奠を行い、各代表者が挨拶を行い、年番町引継式が行われます。そして各町の出し物は、名残を惜しむようにお囃子を響かせ続けるのです。石岡市民は明るく日になると「次の例大祭まで364日」と数え始め、来年度の例大祭を心待ちにして日々を過ごします。



御分霊を運ぶ神輿は2種類あります。土曜と月曜に總社宮と御飯殿を往復する大神輿と、奉祝祭で渡御する明神神輿です。十六弁菊花紋を施した大神輿は青木町の棟梁・小井戸彦五郎が明治30年に製作しました。台輪寸法4尺、重さは1トンに及び、年番町が集めた若人約200人で担ぎます。平成9



年に栃木県石橋町の神輿師・小川政次により修復されています。

明神神輿は大神輿より一回り小さく、總社宮を篤く崇敬する神輿会である「總社明神会」が主導して奉祝祭で渡御し、獅子舞行列と合流して町内を練り歩きます。

「ささら」（茨城県指定無形民俗文化財）は
 冨田町独自の出し物です。紺地に八咫烏を染
 め抜いた幕が張られた移動式の屋台上で、棒を
 操る三匹の獅子舞が演じられます。その歴史は
 古く、「七度半の迎え」を受けねば登場しないと
 言われるほど、格式高い出し物です。三匹は
 それぞれ老獅子・若獅子・女獅子で全体が黒
 漆で塗られ、目と歯には金箔を施し、咽頭部
 には軍鶏の羽根で覆われています。獅子連は笛と
 太鼓で構成され、「通り」「一匹踊り」「念佛」
 は土橋町、仲之内町の髷獅子とともに大神輿の
 大神輿の出陣・鎮座の際には屋台から降りてお



獅子舞は全国的に見られますが、石岡の獅子は「梶獅子」と呼ばれ、大きな獅子頭に囃子衆が乗りこむ移動式の小屋が付随した珍しいものです。小屋は通常幅2m、奥行5m、高さ2.5mほどの大きさ。獅子頭は大きいものでは幅60cm、重さ30kgにも達し、各町内の名手がこれをかぶり持って舞いながら練り歩きます。

梶は町内ごとに連なった子供たちが勇壮な掛け声をかけます。

今や石岡のシンボルとして市民に親しまれる
獅子頭は、造り手によって色や表情が異なり、
祭りの見どころの1つです。供奉行列のほか、奉
祝祭の獅子大行列で一堂に会する様子を見る
ことが出来ます。



石岡囃子と山車

山車は移動式の屋台で、地域によってダンジリ、屋台、山鉾などとも呼ばれます。石岡の山車はいわゆる江戸型で、屋根のない2～3層構造です。最上層には町内ごとに異なる2mもの人形が飾られ、巡行時は「人形守」が、刺股を駆使して障害物を避けながら進みます。人形は神武天皇や八幡太郎など、歴史上の英雄を象ったものがほとんどです。前面の舞台では石岡囃子と踊りが演じられます。台座より上は回転式



で、駅前広場、御幸通りと中町通りの交差点などでは、回転しながらのお囃子、踊りが見られます。また横側の羽目には人形にちなんだ物語の彫刻などが嵌め込まれています。

最下層の台座には長さ30mもの曳綱が取り付けられ、若人たちが曳きます。舵取りは梶子きりと呼ばれる若者が行き、技の見せどころです。若人たちは「おっしゃい、おっしゃい、おっしゃいな、おっしゃいバケツが十三銭、安いと思ったら底ぬけだ」などと時代を反映した冗談交じりな掛け声を掛け、祭礼を一層盛り上げます。

奉祝祭の夕方に行われる山車大行列の開始時には駅前広場にずらりと全ての山車が並び、見物するのに絶好の機会です。

石岡囃子とは、總社宮の例大祭で奏でられる獅子、山車、ささらといった祭り囃子の総称です。中でも狭義には山車囃子をこう呼ぶことが多く、石岡囃子連合保存会によって保存・伝承されています。囃子連は、太太鼓（長胴）1・小太鼓（メ太鼓）2・笛1・鉦1と踊り手による約15名で編成されます。曲目は山車巡行の出発と終了時に奏でられる踊りなしの曲「さんぎり」の他、おかめ（四丁目）・ひょっとこ（仁羽）・きつね（新馬）があります。おかめは女性らしい仕草に合った、ゆったりとした曲調の演目です。ひょっとこは「大笑」・「一文字」・「べろ出し」など、滑稽な面とふるまい、リズムカルな曲調で見物客を笑わせます。そしてきつねは最もテンポが速く、大切り、中切り、乱拍子と変化に富み、勇壮な踊りが特徴です。いずれも2人、3人と踊り手が複数登場することもあり、町内によって得意な演目や見せ場が異なります。

山車の人形

人形は2mの大きさがあり、上下に動かす仕掛けが作られています。各町自慢の人形が、それぞれの思いを込めて山車の上に飾られています。ぜひご覧になって下さい。



はち まん た ろう
八幡太郎
[若松町]



じん む てん のう
神武天皇
[青木町]



べん ざい てん
弁財天
[金丸町]



やまとたけるのみこと
日本武尊
[中町]



にん とく てん のう
仁徳天皇
[國分町]



たけみかづちのみこと
武甕槌命
[幸町]



もち た ろう
桃太郎
[大小路町]



しょう き
鍾馗
[泉町]



しょうとく たい し
聖徳太子
[香丸町]



すがわらのみちざね
菅原道真
[森木町]



くすのき まさ しげ
楠木正成
[富田町]



しずか ご ぜん
静御前
[守横町]

9月14日

国分寺

イベント広場

セブン
イレブン

国分町
府中三丁目

八幡通り

郵便局

泉町会所

御仮殿

祭礼本部

● 国府三丁目

鈴ノ宮
稲荷

プラザホテル

旧市民会館

常陸國
總社宮

タイヨ-

金比羅L

國府公園

ファミリ-
マート

富田町会所

幸町会所

駅西口

駅東口

巡行ルート

9月16日

園分寺

廣田

セブン
イレブン

国分町
府中三丁目

泉町会所

御飯殿

祭礼本部

國府三丁目

鈴ノ宮
稻荷

ブラザホテル

旧市民会館

常陸國
總社宮

タイヨ-

金比羅L

府園
公園

守木町
国府公園入り口

富田町会所

幸町会所

